

令和6年

目黒区教育委員会

第26回定例会会議録

(令和6年7月23日開催)

第26回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 令和6年7月23日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	関根義孝
	教育委員会教育長職務代行者	川嶋春奈
	教育委員会委員	片山 覚
	教育委員会委員	若井田正文

出席職員	教育次長	樫本達司
	教育政策課長	高橋直人
	学校運営課長	関 真徳
	学校ICT課長	藤原康宏
	学校施設計画課長	岡 英雄
	教育指導課長	寺尾千英
	教育支援課長	末木顕子
	統括指導主事	佐藤泰之
	生涯学習課長	斎藤洋介
	八雲中央図書館長	坂本祐樹

書記		小見哲一
		松園拓人

(議事日程)

- | | | |
|------|------|---------------------------------|
| 日程第1 | 協議事項 | 令和7年度使用目黒区立中学校教科用図書の採
択について |
| 日程第2 | 報告事項 | 目黒区立目黒南中学校新校舎基本設計(案)につ
いて(案) |
| 日程第3 | 報告事項 | 目黒区立目黒西中学校新校舎基本設計(案)につ
いて(案) |

(午前9時30分開会)

- 教育長 令和6年第26回目黒区教育委員会定例会を開会します。本日の欠席委員は1名、欠席職員は学校統合推進課長、鈴木統括指導主事です。署名委員は若井田委員です。
- ただいま傍聴の申請がありましたのでお諮りします。傍聴を許可したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それでは、傍聴を許可することとします。
- なお、以後、傍聴の申請があった場合には、22人までその都度許可することとし、委員の皆様にはお伝えすることはいたしません。
- それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 令和7年度使用目黒区立中学校教科用図書採択について
(協議事項))

○教育指導課長 (資料により説明)

- 教育長 ただいま事務局より説明がありましたが、本日も前回に引き続き令和7年度から目黒区立中学校で使用する教科用図書について、「調査研究委員会報告書」及び「学校調査報告書」を参考に、実際の教科書も見ていただきながら、協議を進めていきたいと思っております。

資料1の採択日程のとおり、本日は「地理」、「歴史」、「公民」、「地図」、「美術」の5種目について協議します。

8月20日の協議で各種目の候補を1社に絞る予定ですので、発行者数が多い種目については一定程度の絞り込みを行っていききたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

それでは、そのような形で進めていきたいと思っております。

なお、前回までと同様に、協議の際に呼ぶ各教科書の発行者名は、お手元の資料2、発行者一覧に記載の協議用記号のアル

ファベットで発言いただくようにお願いします。

○教育長

地理から協議を始めます。

地理は4社ありますので、この中から本日は2社に絞りたいと思います。

○委員

実際の教科書を読み、調査研究委員会報告書や展示会で教科書を閲覧した方からの意見を踏まえ、自分で重要だと思う点を様々見比べたうえで採択候補を決めました。

地理はA社、B社を選びました。

A社は、裏表紙に「QRコードを使おう」というデジタルコンテンツのまとめが示されており、すぐにアクセスできるところが非常に良いと思いました。また、「アクティブ地理」という特設ページや、「未来に向けて」、「技能を磨く」、「地理プラス」などのコラムが効果的に掲載されていて、分かりにくい用語の解説等を行っています。他社の教科書では少し分かりづらいつらと感じた点について説明されていて良いと思いました。さらに、巻末の「世界の家畜・鉱産物」は、どの教科書にも同様のページはありましたが、その中でも解説が丁寧で、動物の写真も非常に良いと思いました。

次に、B社です。巻頭に「世界の食事を見てみよう」というページがあり、他社と比べても非常に楽しい始まりだと思いました。そして、一番引き込まれたのが、第2編「世界のさまざまな地域」の第1章「人々の生活と環境」です。最初に「雪と氷の中で暮らす人々」として、イヌイットの話が掲載されています。ワイルドな写真がまず目に留まり、その後に雨温図やイヌイットの方の声載っていて、大変興味深く感じました。次のページ以降には、「寒暖の差が激しい土地に暮らす人々」、「温暖な土地に暮らす人々」などが続き、とても楽しく読み進めました。

○委員

4社ともすばらしい教科書で、非常に選択が難しかったのですが、A社とD社を選びました。

まずA社ですが、学習内容が、地理的思考力を養えるように構成されていると感じ、教員にとっても非常に使いやすい教科書だと思いました。また、「学習を振り返ろう」というページで学んだことが整理されており、分かりやすく説明されていて、生徒の記憶に残りやすいのではないかと思います。

次にD社です。「地理の技」、「地理の窓」、「確認」、「表

現」といったコーナーやコラムにより、さらに知識が深まると思いました。また、本文中のカギになる名詞や事柄について、見開きページ内に解説があり、勉強しやすいと思いました。章末の「学習のまとめと表現」も思考力が養えるように設定されていると思いました。また、表紙の「地域にまなぶ」という題のとおり、日本の各種文化や課題が地方ごとに学べるようになっていて、非常に興味深く感じました。

○委員

地理はどの教科書も課題解決的な学習を進める内容になっており、地理的な見方、考え方を5つに整理しているところも同様でした。また、「世界と日本の地域構成」、「世界のさまざまな地域」、「日本のさまざまな地域」、「地域のあり方」という4つのブロックから成る構成や、地域調査の手法が丁寧に示されているところ、デジタルコンテンツが豊富という点も共通しており、率直に言うと甲乙つけ難い内容でした。その中で、私はA社とB社を選びました。

A社は地理に対する興味・関心を高め、学びを深める様々な工夫があると思いました。例えば課題解決のために、自分たちで積極的に協働して深い学びを実現する「アクティブ地理」という特設ページや、「環境・エネルギー」、「防災」などの6つのテーマから、未来の社会をつくる取組を紹介する「未来に向けて」というコラムが設けられています。さらに、地理の学習に必要な技能を習得する「技能をみがく」、学習内容に関連した事例を紹介する「地理プラス」というコラムもそれぞれ20以上のテーマについて設定されています。特に、「世界のさまざまな生活と環境」のページでは、暑い地域、乾燥した地域、温暖な地域、寒い地域、高地のそれぞれについて、衣食住の写真を紹介するなど、様々な工夫があると感じたためA社を選びました。

B社もA社と同様に、地理に対する興味・関心を高め、学びを深める工夫が様々見られます。例えば基礎的・基本的な技能を身に付ける「スキル・アップ」というコーナーが31テーマ設定されています。さらに、本文に関連する内容をさらに深めたり、広げたりする「もっと知りたい」、未来に向けて持続可能な社会の実現を考えるための「未来にアクセス」というコラムも多数設定されています。このように、様々な工夫がされていると思ったためB社を選びました。

○教育長

続いて、本日欠席の委員からは、事前に選定した発行者及びその理由について書面で伺っています。地理はA社とB社を推すとのことです。

各社の内容、コンテンツが非常に類似しているため、評価に差はあまり出ませんでした。その中でA社は、地理を学ぶうえで必須である地図と当該地域の写真という客観的な資料が冒頭に示され、その後に各地方についての説明がなされているという構成が分かりやすく、学習に適していると感じました。B社は、写真を中心とした内容となっており、ビジュアル的に生徒に分かりやすい面があると思いました。

以上の理由から、A社とB社を選んだとのことです。

○教育長

本日は、地理、歴史、公民と見ていくわけですが、改めて言うまでもなくそれらには関連性があり、地理について言えば、歴史や公民といった人間の営みを考えるうえでのベースとなる、地域の環境条件や地域間相互の結びつきという空間的な感覚を身につけるための大切な科目と捉えています。

私が推す2社は、A社とD社です。

A社については、巻頭で地理的分野の学習の全体像が示され、歴史的分野及び公民的分野との関係性にも触れています。さらに、地理的な見方、考え方についてのポイントが実に分かりやすく示されるなど、導入部が整えられていると思いました。本編も巻頭で示されたポイントを具体的に身につけていくことができるようなコラムが多数用意されており、地図帳で確認させたり、内容を発展させる問いかけがあったりするなど、良く工夫されている教科書だと思いました。また、全体を通して、地図を活用するという姿勢があり、特に地球儀と世界地図の違いについて分かりやすく述べられている点を評価しました。

次に、D社ですが、B社とC社については、私が今、A社について良いとした点について、それぞれ上回るものがなかったとの評価です。一方、D社については、まず、巻頭で地理的分野、歴史的分野、公民的分野との関係性、学ぶことの意義が明確に示されています。そして、日本の領土、領海、領空の説明と、領土をめぐる様々な動きについて整理して述べられています。さらに、例えばイギリスの国旗、ユニオンジャックをめぐる考察や、アフリカ州にはなぜ直線的な国境が多いのかといった問いかけが用意されており、小さな投げかけではありますが、

生徒に世界の在り方を非常に深く考えさせる視点がちりばめられた、なかなか刺激的な教科書だと思いました。

- 教育長 皆さんの意見を伺い、本日は2社に絞り込むということですので、全員が推すA社、3名の方が推すB社の2社を8月20日の協議に残したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それでは、A社とB社を採択候補として残したいと思います。ここで議事の都合により暫時休憩とします。

(午前9時47分から午前9時48分まで 休憩)

- 教育長 休憩前に引き続き協議を再開します。
次は、歴史について協議します。歴史の発行者は9社と多いため、この中から本日は3社に絞りたいと思います。

- 委員 人類の誕生から現代に至るまでに起こった事柄を、その時代の事象として捉えることができる教科書が良いと思います。特に幕末から近代史に至る内容については、解釈が様々あり難しいため、生徒は事象として捉えれば良いと考えています。

その中で、歴史の教科書が使いやすいかどうか、生徒の好奇心が湧くようにつくられるかどうか、といった観点から選びました。

まず、A社、B社、C社、D社、E社、F社、I社はいずれも、文章中に番号が振られており、その番号の内容に沿った写真や図が掲載され、生徒が確認しやすくなっていると思いました。さらに、文章中に新しく出てくる言葉の説明がきちんと示されており、調べやすいと感じました。

巻末の折り込みについては、日本と世界の歴史の流れが簡潔に記されているかという点に着目しました。そのうえで選んだのは、A社、B社、C社です。

A社は、「スザク号」というタイムマシンに乗り、その時代の体験学習をするという構成になっているため、歴史に対する好奇心が湧きやすいのではないかと思います。また、写真や表が非常に多く、その時代の出来事を視覚的に捉えることができると感じ、これは大事なことだと思いました。

次にB社ですが、文章の初めに学習課題が示されており、目標を捉えやすいと思いました。また、「まとめの活動」のページには、「確かめよう」や「ふり返ろう」などがあり、知識の確認が行えるようになっていきます。さらに、「深めよう」は、生徒の思考力、表現力が養えるように設定されていると思いました。

次にC社です。ふり返りをするページがあり、非常に大切な事柄の確認ができるようになっていくと思いました。また、その時代の特徴を考えるページがあり、主体的に学ぶ工夫がされていました。また、コラムについても興味深い内容が含まれていました。

○委員

私は、A社、D社、I社の3社を選びました。

どの教科書も、日本だけではなく世界も含めた歴史全体の流れが描かれていると思いました。また、デジタルコンテンツも豊富だと感じました。

その中で、A社とB社は、章、節、テーマのそれぞれの流れが、課題解決的な学習を推進する構成になっているところが良いと思いました。生徒が学習しやすく、教員も教えやすいと思いました。

続いてI社は、ページ内に「Q」という多様な問いかけがあり、歴史を学ぶうえで重要な質問がたくさん掲載されており、深く歴史を学ぼうとした場合に意味を持つと思いました。また、本文の最後には「ステップアップ」があり、その時間の学習を踏まえて取り組むべき課題が用意されています。

D社は、章末の「学習のまとめ」が充実していると感じました。「HOP」、「STEP」で資料を読み解くなどの活動、「JUMP」で3つの歴史的な見方、考え方から時代の特色を考える活動などがあります。

そして、歴史への興味・関心を高め、多様な視点で捉えるための主体的、対話的な活動を促すようなテーマが、今回選んだ3社にはあると思いました。A社には、先ほどの地理と同様に、「アクティブAL」、「技能をみがく」、「歴史を探ろう」という、歴史に対する興味・関心を高めるための特設ページやコラムがあります。D社も「歴史の技」や「歴史の窓」という興味・関心を高めるコーナーやコラムがあります。I社は、先ほど述べた、歴史を学ぶうえで重要な見方や考え方を問う「Q」

に加え、本文自体も非常に質の高いものだと思います。その他にも「歴史へのアプローチ」や「地域からのアプローチ」といった興味・関心を高めて、多様な視点で歴史を捉えるためのページが豊富だと感じました。

○委員

私は、A社、B社、D社です。

A社は、地理と同様に、2次元コードやコラムが充実していると感じました。また、何といたってもタイムトラベルのページが非常に楽しく、良いと思いました。しかし、一部の写真が小さいため、見えにくく感じました。また、視覚的に少し騒がしいとも感じました。そのため、最後まで選択するか悩みましたが、他の教科書とのつながり等を考慮して、採択候補に選びました。

次にB社ですが、写真のレイアウトが良く、すっきりしており、最も見やすい教科書だと思います。第1章「歴史への扉」で歴史上の人物がイラストになって登場しますが、B社はそのイラストが中学生にとって親しみやすいものになっていると思います。また、写真に対しての解説が丁寧だと感じました。例えば千利休がつくった茶室について、他社にはない「にじり口」の説明があり、細やかさが感じられる教科書だと思います。

続いてD社ですが、余白が少なく、1ページ当たりの文字数が多いと感じ、見慣れるまでは少し窮屈で見づらいと思いました。しかし、例えば「戦争の記憶をつなぐ」というページに、「焼き場に立つ少年と白旗の少女」の写真が載っています。中学生がこの写真を見てどう感じるか気になるところですが、この写真を掲載している点もD社を選んだ理由です。

○教育長

本日欠席の委員ですが、B社、C社、I社の3社を推しています。理由を読み上げます。

歴史については、できる限り事実、史実に基づいた中立的な記述の教科書が望ましいとの観点から選びました。その中で、個人的な好みとしては、I社の記述が客観的であり、かつ歴史の流れを押さえていて丁寧であると思いました。

B社、C社は似ていますが、写真、資料が豊富に掲載されていて、資料集も兼ね備えるものとして、教科書に適していると思いました。

B社は、「確かめよう」「ふり返ろう」「深めよう」で学習

の成果を確認し、理解を深めることができました。

C社は、「歴史を掘り下げる」のコーナーで、歴史への興味を湧かせる工夫があると思いました。

以上の理由で、B社、C社、I社の3社を選んだとのことですので。

○教育長

私は、A社、B社、D社の3社を推します。

まず、A社については、地理的分野の教科書と同様に、巻頭で学習の全体像が示される中で、地理的分野、公民的分野との関係性に触れ、さらに歴史的な見方、考え方のポイントが明示されるなど、導入部が整えられていると思いました。さらに、本編でも歴史に興味を持ち、深く考えることにつながるコラムが多く用意されています。また、アクティブ・ラーニングを意識したコーナーがあり、こういった教材を通じて、いつの時代も多様な意見をぶつけ合いながら世の中が進んできたということを中学生に学んでほしいと思いました。

次に、なかなか各社の差異を見つけづらいところではありましたが、B社です。近現代史については、公民の学びへとつなげるためにも、充実してほしいと考えています。その中で、B社は中学生の記憶にとどめてほしいと思う、特に戦中から戦後の写真が精選されていると感じました。また、日本が多くの戦争に突入していった経過をまとめさせるという課題があり、ぜひ取り組んでほしいと思いました。

続いてD社です。近現代史のさきの大戦について、一例として写真の話になりますが、戦中の中目黒小学校に係る貴重な写真が掲載されています。また、「戦争の記憶をつなぐ」という教材もあり、そういった点を評価しました。

○教育長

各委員にご意見を伺った結果、4名の方が推すA社、同じく4名の方が推すB社、そして、3名の方が推すD社を採択候補として残したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

○教育長

それでは、8月20日の協議で、このA社、B社、D社を採択候補として、この中から1社に絞りたいと思います。

ここで、議事の都合により暫時休憩とします。

(午前10時6分から午前10時7分まで 休憩)

○教育長 休憩前に続き協議を再開します。
次は、公民について協議します。公民の発行者は6社ですので、この中から本日は3社に絞りたいと思います。

○委員 私はB社、C社、E社を選びました。
どの教科書もSDGsや人権、環境、防災、多文化共生など、現代的な課題を扱っているところや、生徒に課題解決的な学習を促すような仕組みがある点が共通しています。また、地域の事例を紹介するページが多い点や、デジタルコンテンツが充実しているところも各社共通でした。

その中で、B社は公民の考え方を5つに整理しています。C社は公民の考え方を本文の中で簡潔に示しています。E社も、「見方・考え方」というコーナーで自分の生活に関わることを取り上げ、それを基に学習を深めていく構成になっています。

また、B社は公民としての資質・能力を高めるためのページが多数用意されています。例えば学習した内容をもっと多角的な視点から考察する「もっと知りたい」というコラムや、18歳の成人年齢に向かって準備する「18歳へのステップ」というページがあります。公民は中学3年生で学習するため、あと3年経過すると成人になります。公民としての考え方を深めていく非常に大切な時期であるため、このような取組も良いと思いました。

C社は、巻頭の「公民を学ぶにあたって」という文章が非常に良く、その文章を貫く考え方、コンセプトが、教科書全体を編集していると考えると、C社の編集意図がよく分かりました。また、見開きページの右下に「歴史」という課題があり、公民の中で、歴史という別の視点から学習内容を考察する、見直す課題があります。これも有意義だと思いました。その他にも、生徒の主体的、対話的、協働的な学びを促す「アクティビティ」や、中学生が社会に参画するための手がかりを示す「明日に向かって」、社会の課題を考察・構想する「チャレンジ公民」など、特徴的なページがあると思いました。

E社は、巻頭の「なぜ公民を学ぶのか」という文章が良く、時間と空間の広がりの中に存在する自分というものを自覚し、他者と共に生きていこうという考えを育てる内容になっている

と思いました。その他にも、「学習を深めよう」というコラムや、個人やグループで共同作業を行う「やってみよう」、主体的、対話的な学習を促す「TRY」などがあります。

3社とも本文の内容ももちろんですが、特色を持たせるページが豊かだと思いました。

○委員

私は、A社、C社、D社です。

A社は、他の社会の科目で感じた良い点を公民でも感じました。また、「18歳への準備」という目を引くタイトルのページにも惹かれました。写真もはっとするものが多く、歴史と違い見やすく感じました。例えば、ショルダーフォンで通話する人の写真やある中学校の全校生徒数の比較の写真、「ハンセン病療養所に保育園」という写真、クローン技術で誕生した5匹の猿の写真など、非常に興味深く感じました。

次にC社です。こちらも、子どもたちがどう感じるか気になる写真が多くあり、ハゲワシと少女、ロヒンギャ族の難民、地雷で足を失った子ども、飢餓に苦しむ子ども、ごみを売ってお金を稼ぐ子どもなどの写真が載っているところも良いと思いました。また、「まちのバリアフリーを探そう」のページに、「エントランス」と「うえ（上）」という言葉の点字があり、実際に触ることができて良いと思いました。

続いてD社です。夜間学級の授業風景や給食を食べている様子の写真、時間割が掲載されており、自分の中の夜間学級に対するイメージと全く異なっていて、興味深く感じました。また、選挙についてのページは中学生にも理解しやすいと感じ、この教科書で勉強した生徒が投票できる年齢に達した際には、投票する人が増えるのではないかと思いました。

○委員

選んだのはA社、B社、F社です。

まずA社ですが、各章の初めに「学習の前に」という導入のページがあり、概要がきちんと示されていて良いと思いました。また、各節に学習課題が設けられており、目標が捉えやすいと思いました。さらに、「アクティブ公民」という特設ページ・コラムもあり、学んだ知識を使い、例えば「パン屋さんをつくらう」や、世界の発展のためにどうしたら良いかというような課題など、思考力が養われる内容になっていると思いました。

次にB社です。各章が「導入の活動」から始まっており、学習課題の説明が非常に丁寧だと思いました。また、ページ下部

に「チェック」、「トライ」という課題があり、重要な事柄の確認ができるようになっていたと思います。さらに、「もっと知りたい」というコラムでは、公民を学ぶ必要性が理解しやすく説明されていると思いました。

次にF社ですが、個々の単元の文章が非常に短く、中学生にも理解しやすくまとまっていると思いました。また、使用しているキャラクターが非常に親しみ深く、言っている内容から、知識の整理がしやすくなっていると思いました。

○教育長

本日欠席の委員は、A社、B社、そしてD社を推しました。理由を読み上げます。公民は政治的な立場が出やすい科目であると考えていますが、できる限り政治的に中立に学べる教科書、また、経済の部分が実用的な教科書が望ましいと考えています。

A社は、人権についての記述が充実していること、また、思考ツールの活用方法が多数記載されていてユニークであると思いました。

B社は、全体的にコンパクトにまとまっており、中学生に分かりやすい文章になっていると思いました。

D社は、憲法と人権を独立の章にして、政治とは独立させていること、安全保障について肯定・否定の両論を併記しているところが、他社と比べて客観的な視点で編集されていると感じ、思考ツールも使用されているところがよいと思いました。

以上の理由から、A社、B社、D社とのことです。

○教育長

私は、A社、C社、D社です。

まず、A社については、地理的分野、歴史的分野の教科書と同様に、巻頭で公民的分野の学習の全体像を示す中で、3つの分野の関係性に触れ、さらに学ぶ意義が明確に述べられていると思いました。ちなみに、この3種目の関係性について繰り返し触れているのはA社のみです。また、現代社会の見方、考え方として、対立と合意、効率と公正という、今、最も押さえておくべき概念が巻頭部分から示されている点も良いと思いました。さらに、本編においても、これらのポイントを確認するのに有用なコラムが多数用意されており、その中で、メディアリテラシーについて、この言葉を見出しに用いたうえで、分かりやすい記事を掲載している点も良いと思いました。

次にC社です。巻頭で地理的分野、歴史的分野とのつながりに触れたうえで、公民を学ぶ意義が正面からきちんと述べられ

ている印象を強く持ちました。そしてC社も、対立と合意、効率と公正の考え方が非常に分かりやすい事例と共に示されています。また、メディアリテラシーに関しては、新聞記事のつくり方、つくられ方について、良い教材が使われていると思いました。

続いてD社ですが、巻頭の公民的分野へのアプローチの仕方についての説明が非常に具体的で丁寧だと感じました。また、A社、C社と同様に、対立と合意、効率と公正についての考え方の展開も丁寧だと思いました。そして、D社においてもメディアリテラシーという言葉を見出しに用いた記事があります。さらに、「なぜ」という小さな問いかけが非常に多く置かれており、覚えるだけでなく、次々と考えさせられる教科書になっていると思いました。

○教育長

皆さんの意見をお聞きしたところ、A社を4名の方が推し、B社、C社、D社については、いずれも3名の方が推しました。冒頭では今回は3社を残すという話でしたが、各委員3社を推す中でも、それぞれ優劣はあると思いますので、ここでB社、C社、D社の中からどれを残すかについて議論を重ねることにあまり意味はないと思います。そのため、A社、B社、C社、D社の4社を8月20日の協議に残したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

○教育長

それでは、A社、B社、C社、D社について、8月20日の協議で1社に絞りたいと思います。

最後にB社について、少し気になる点がありましたので、その点について触れます。「選挙の流れ」というページの中で、ある議員が当選して万歳をしている写真が掲載されています。この議員は大変有名ですが、党首でもなく、そのような立場の議員の写真を、顔がはっきり分かるような形で載せるのはいかがなものかと思い、私は選択しませんでした、ということは述べておきます。

それでは次回、この4社で絞り込みを行いたいと思います。ここで、議事の都合により暫時休憩とします。

(午前10時24分から午前10時25分まで 休憩)

- 教育長 休憩前に引き続き協議を再開します。
次は、地図について協議します。地図の発行者は2社ですので、本日は絞り込みは行わず、委員の皆様のご意見、ご感想を伺うのみとして、8月20日に1社に絞りたいと思います。
- 委員 A社は、地図の中の記号やイラスト、資料、グラフ、写真が豊富で、時間を忘れて見ることができる教科書だと感じました。「東京都の中心部」には目黒区の区域が大体載っていましたし、「日本の自然災害・防災」のページに、日本地図全図が載っているのも良いと思いました。
次にB社ですが、こちら也非常に楽しい教科書だと思いました。地図帳と一緒に世界旅行をする「ミツバチーズ」というキャラクターが登場し、「ビーズアイ」という地図を深く読み取るためのヒントとなる問いを投げかけています。3匹それぞれが種類の異なる問いを担当しており、それがデジタルコンテンツと良い連携で、学びを深められると思いました。また、「江戸・東京の鳥観図」のページで、江戸時代末期の上目黒、中目黒、下目黒、目黒不動、目黒川が示されていますが、「ビーズアイ」がその地図の目黒区のあたりにかぶさってしまっているところが少し残念に思いました。
- 委員 まずA社です。巻頭で地図の見方、活用法が非常に詳しく説明されていると思いました。また、「地図で発見」という問いが随所に置かれ、地図を見る力を養うことができると感じました。さらに、地図全体が非常にすっきりしていて見やすいと感じました。
次にB社です。先ほどの委員も述べたとおり、3匹の蜂のキャラクターが登場し、問題を提起しています。その内容が非常に多岐にわたっており、勉強を進めるに当たって非常に良い試みだと感心しました。一方で、地図の地名等の記載が細かく、例えば東京湾の周辺地図に工場地帯の跡がいくつも記載されているなど、すっきりしない印象で、少し見にくく感じました。
また、世界の文化を紹介するページで、A社はさまざまな言語の「こんにちは」、B社は「私は学生です」を掲載しています。私は「こんにちは」の方が適していると思いました。
B社は蜂のキャラクターがすごく面白い試みをしていると思

い、A社は地図全体がすっきりしているという印象でした。

○委員 私は幼い頃から地図を見るのが好きで、地図を見ていると時間を忘れるぐらいでしたので、今回も楽しく地図を見させていただきました。

○教育長 本日欠席の委員からのご意見です。
A社、B社ともに酷似しているが、A社のほうが全体的にすっきりしていて見やすく、紙質がしなやかで、繰り返しめくって調べるのに適していると思いました。

B社は地図の中に情報が多く盛り込まれているが、中学校の地理の学習に必要な情報も多く、かえって見にくくなっていると感じました。また、地名が情報によって分断されていて読みづらいところも見受けられました。

以上のようなご意見でした。

○教育長 2社とも地図のページと資料のページとがありますが、まず、資料部分については、A社、B社のそれぞれに良さがあると思いました。例えばA社であれば、巻末の領土、領海、領空の範囲についての模式図や、ヨーロッパ州における国境の変化などの資料が目につきました。また、B社であれば、SDGsについてのきちんとした説明や、A社と全く同じ項目を扱った資料でも、B社のほうが見やすいと思われるものが多々ありました。ただ、言うまでもなく重要なのは、資料よりも地図としての見やすさだと思います。土地の高さを示す色や、都道府県の境界、地名を示す文字の置き方など、A社のほうがB社よりすっきりしていて見やすいというのが率直な感想です。

○教育長 それでは、地図については、8月20日にこの2社から1社に絞りたいと思います。

ここで、議事の都合により暫時休憩とします。

(午前10時31分から午前10時32分まで 休憩)

○教育長 休憩前に引き続き、協議を再開します。
次は、美術について協議します。美術の発行者は3社ですので、この中から本日は2社に絞りたいと思います。

○委員 B社とC社を選びました。
まずB社を選んだ理由ですが、例えば「風神雷神図屏風」や「最後の晚餐」の絵が非常に大きく掲載されていて、非常に印

象的でした。また、仏像等の写真も迫力がよく伝わり、一生記憶に残るのではないかと思いました。さらに、日本画のコーナーは、紙を和紙風にしており、和の雰囲気がとても良く醸し出されていると思いました。また、資料の冊子が別についており、これが教育的に配慮されていると思いました。

続いてC社ですが、タイル張りや油絵の質感が触って分かる表紙が、美術らしい教科書だと思いました。また、「自分の姿を見つめよう」という自分の顔を描くページがあり、これが実写的で子どもたちに分かりやすいと思いました。さらに、美術の中で何を表現するのかということに関し、ピカソの「ゲルニカ」や、ロダンの「カレーの市民」について、非常に分かりやすく説明していると思いました。

○委員

A社とC社を選びました。

3社ともSDGsをはじめ環境や防災、多文化共生、情報技術など、現代的な課題にも対応しており、現行の学習指導要領上の共通点だと思いました。また、折り込みで鑑賞する作品や原寸大の作品があるところ、生徒作品などに作者の言葉が紹介されている点も共通しています。さらに各地域の取組、作品の掲載が多いところ、デジタルコンテンツが豊富であるところ、資料が多様で豊かである点も共通しています。

その中でA社は、まず3冊に分かれているところが一つの特徴だと思います。学年数を考えると、3冊に分かれていても良いのではないかと思いました。また、基本的に題材を2ページで構成しており、各題材の表題が、「材料に命を吹き込む」や、「光に気持ちを込めて」など、子どもたちが意欲を持てるような表題になっていると感じました。さらに、「造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標」、「発想や構想、鑑賞に関する目標」、「主体的に学習に取り組む目標」からなる学びの目標がそれぞれマークで記されており、分かりやすいと思いました。また、「鑑賞の入口」、「造形的な視点」、「表現のヒント」というコーナーが、見開きの題材の中に全て配置されているため、見やすく、学習しやすいと思いました。2ページの紙面構成であることから、教員の工夫によって様々な授業展開ができる、教員の自由裁量の幅が大きい点が特徴ではないかと思いました。

次にC社です。つい触ってしまうユニークで面白い表紙だと

思いました。また、「この教科書で美術を学習する皆さんへ」のページに書かれている内容が良く、これが編集方針を貫いていると思いました。例えば、「中学校では表現と鑑賞の学習を通して新しい価値を生み、未来をつくる力を身につけるよ」や、「美術文化は、多くの人々が互いの個性と考えを認め合ったり、共感したりすることで発展してきました。個性と共感を大切に、文化を生み出す美術の世界を深めましょう」など、やはりこういった考えが全体の編集を貫いていると思いました。また、美術1の教科書が「スケッチブックから広がる」という教材から始まるのは、私はとても良いと思いました。やはり絵画を学ぶにしても、彫刻、工芸を学ぶにしても、スケッチは基本だと考えています。さらに、題材を基本的に4ページで構成しており、表題の切り口がA社と同じように良いと思いました。例えば「スケッチブックから広がる」もそうですが、「その人らしさが大切」や、「炎と共に生きる」など、生徒の意欲をかき立てるものになっていると思いました。また、本文の小見出しが「知識・技能」、「発想・構想」、「鑑賞」のマークと共に書かれており、どのような目標で学習するのか分かりやすく、3つの学習の目標について、分かりやすく明確に述べられていると思いました。さらに、先生のキャラクターが登場しますが、吹き出しで述べられている内容が味わい深いと思いました。例えば「教科書に掲載されている作品はお手本ではないよ。自分にとって大切な作品を生み出そう」と書かれています。要するに教科書は一つの参考にはなるけれど、自分の個性を、感性を大切にしようということだと思えます。また、紙面構成と掲載されている作品がとても良いと思いました。特に生徒作品や木版画が良いと思いました。

○委員

3社で共通する良さも感じながら、それぞれの特徴もあり、どの教科書を選ぶか決めるのに相当の時間がかかりました。

その中で私はB社とC社を選びました。

A社を選ばなかった理由を述べます。全部のページではありませんが、ページ下部に「道徳との関連」の記載がありました。

「優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献しよう」、「美しいものや気高いものに感動する心を持とう」など、様々書かれていました。私は、感動するのはその人の感性であり、自由なことであると考えているため、書かなくて良いのではないか

と思いましたが。美術の教科書としては非常に素晴らしく、惹かれるのですが、その文章が気になったため選びませんでした。

B社は、岡本太郎の「明日の神話」が掲載されています。渋谷駅に掲げられた巨大な壁画のため、見たことがある人もいると思いますし、これから見に行く人もいるのではないかと思います。また各社共通していますが、原寸大の作品が載っており、特に「鳥獣人物戯画」や、葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」など、私自身も興味深く鑑賞しました。さらに、「地域の魅力を表すパッケージ」のページでは、2次元コードから全国のお土産のパッケージデザインと生徒作品を見ることができ、楽しく感じました。生徒の良いヒントにもなると思いました。さらに、「仏像について知ろう」の阿修羅像の顔が美しく、素晴らしいと思いました。巻末の美術史年表も非常に良いと思いました。少し気になった点としては、資料が別冊になっているため、紛失してしまう可能性があるのではないかと思います。

次にC社ですが、美術1の教科書に見開きで、ルネ・ラリックの「トンボの精」が原寸大で載っており、想像よりも大きいと感じました。絵画にしても彫刻にしても、実際に見に行ってみたいと思いました。また、教科書全体を通じて使用している写真が違和感なく溶け込んでおり、非常に素晴らしいと思いました。良くまとまっており、私はC社が一番良いと思いました。

さらに、C社は表紙も非常に良く、裏表紙の資料提供・協力のレイアウトが、よく見ると表紙のデザインに合わせて美術1は「ドラゴンの横顔」、美術2・3は「花瓶」になっています。この教科書を生徒が教室移動の際に持ち歩く光景を想像すると、非常に素敵な、芸術的な光景だと思いました。細部にまでこだわった素晴らしい教科書だと思いました。

○教育長

本日欠席の委員は、A社、C社とのことです。理由を読み上げます。

A社はオーソドックスで身近な工芸品やイラスト等が多く紹介されていて、自分でもつくれそう、つくってみようと思わせるような構成になっており、中学校の美術の教科書として適していると思いました。

C社は2冊から成っていてすっきりしていること、1年生と2・3年生とで掲載している作品の傾向が分かれていて、1年生は親しみやすいもの、2・3年生は美術作品として評価が高

いと思われるものと、役割分担がされていること、表紙が立体的になっていて凝っていると思いました。特にゴッホのひまわりの表紙は、絵の具の質感も伝わるような気がしました。

以上の理由からA社、C社を選択しています。

○教育長

美術の教科書については、表紙以下の各ページで目にする作品が著名な作品であれば、生徒たちが実物を見たいと思い、それが中学生の作品であれば、生徒たちが自分もつくってみたいと思うような、子どもたちを刺激する教科書であって欲しいと思います。

また今回、3社がそれぞれに分冊の仕方が異なっており、そういった点からも非常に迷うところがありましたが、結論としてはA社とB社を選びました。

A社については3分冊で、第1学年用と、第2・第3学年用の上巻、下巻に分かれています。掲載されている生徒作品が精選されていること、巻末資料で様々な技法が押さえられていること、そして、美術史年表が分かりやすく整えられている点を評価しました。

B社については、別冊資料がついています。別冊をつけることで充実を図ろうとすることの適否はあるかと思いますが、このB社の別冊の有用性は否定し切れないと判断しました。そして、A社でも少し触れましたが、中学生には美術史をきちんと捉えてほしいと考えているため、A社と同様に年表が整えられている点を評価しました。

残るC社ですが、生徒作品については一番引きつけるものがありました。また、仏像の見せ方なども非常に迫力があり、良いと思いました。美術史年表が他社に比べて少し分かりづらいという印象を持ちました。

○教育長

皆さんの意見を伺い、A社が3名、B社が3名、C社が4名となりました。

他の科目でも少し触れましたが、委員それぞれ、選んだ発行者の中でさらに順位付けがされているかと思います。そのため、今ここでどの教科書を残すかについて議論を重ねることにあまり意味はないと考えます。したがって、本日の他の委員からの意見も参考にしつつ、8月20日に、この3社の中から1社の選択をするという形にしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員同意)

- 教育長 それでは、8月20日に、A社、B社、C社の中から1社を選択したいと思えます。
 以上で教科書採択の協議を終わります。
 ここで、議事の都合により暫時休憩とします。

(午前10時56分から午前10時57分まで 休憩)

- 教育長 休憩前に引き続き会議を開きます。
 議題に入りますが、日程第2及び第3はいずれも統合新校に関する内容ですので、一括して議題とします。また、質疑も一括して行います。

(日程第2 目黒区立目黒南中学校新校舎基本設計 (案) について (案)
 (報告事項))

(日程第3 目黒区立目黒西中学校新校舎基本設計 (案) について (案)
 (報告事項))

- 学校施設計画課長 (資料により説明)

- 教育長 この件についてご質問等がありますか。
 特にないようですので、この報告を受けました。

- 教育長 その他なにかありますか。
 特にないようですので、以上で本日の定例会を閉会します。

(午前11時2分閉会)